



学校だより



昇陽

校訓「昇る陽の如く」

Sho-yo

第12号

発行日

令和6年

3月1日

学校教育目標

学ぶ喜びを知る生徒

誠実な生き方ができる生徒

たくましい気力・体力を身に付けた生徒



## 「感謝」「教師の幸せ」

校長 寺井 進一郎

3月を迎えました。今年も3年生が通い慣れた学び舎を巣立っていきます。何度、卒業生を送り出したでしょうか。40年余りの教職生活で出会った生徒は一体、何人位いるのでしょうか。見当も付きません。ただただ、昭和・平成・令和それぞれの時期の中学生と触れ合えたことは私の幸せです。利根川の堤防、農地を囲むあぜ道にポツンポツンと咲き始めた菜の花を眺め、今、そんなことを想っています。

私の教職生活のスタートは羽生市でした。中学校時代に美術を教わっていた先生が勇退され、その後任として大学新卒の私が配置された人事でした。「母校が初任校となるなんて…」と、因果を感じました。職員室に入ると、昔懐かしい恩師の先生方が何人かいらして、「よく来たね…」と迎え入れてくれたのを覚えています。私はここで教師としての「素地」を先輩方から叩き込まれました。現在の学校経営のノウハウは20代の頃の自分が確立した担任としての学級経営が礎となっています。そして30代で経験した勤務2校目が本校・羽生市立東中学校でした。ここは、教師となった私にとって、喜怒哀楽、全ての感情や思いが溢れた学校です。学級担任も、部活動顧問も、私生活を顧みないほど必死でやっていました（当時、あまりにも家のことをやらなかったもので、今でも家族には怒られています）。生徒や保護者の皆さんが喜んでくれることが一番の幸せでした。家庭や地域の方々との触れ合いが嬉しくて、楽しくて…。どれだけお世話になったか分かりません。今でも、教師としての誇りや自信、そして責任は、この頃の本校の生徒、保護者、地域の方々から教えられたものだと思っています。8年間の勤務を経て、この学校を去る時、離任式のステージ上で感極まり、泣きながら「必ず、ここへ戻って来ます！」と、つい、口走ってしまいました。



その後、20年余り、県や他の市町教育委員会、学校に勤務する中で、教科や道徳、特別活動の研究にはまり、次第に教育課程（学校で行う教育活動の全て）に興味を持つようになっていきました。そして校長となって2校目、まさか、かつて、こよなく愛した本校に本当に戻れるとは思ってもありませんでした。しかし、学校は、自分がいなかった20数年の内に随分と変わっていました。「変わっていてよい部分はそのままに、変わって欲しくなかった部分は改め、絶対に取り戻してやろう…」と心に誓いました。そのエネルギーとなったものは、純朴で素直な生徒の皆さんの姿です。そして温かい家庭・地域の方々です。保護者や地域住民の中には、かつての教え子の皆さんも沢山いらっしゃいました。校長として戻った私にとって、どれだけ心強かったか知りません。何度も心が折れそうになりながらも、耐え凌ぐことができました。お世話になった全ての皆様に深く感謝し、厚くお礼を申し上げます。

羽生市そして本校学区は、言わずと知れた明治の文豪・田山花袋の小説「田舎教師」の舞台です。主人公・林清三は、明治期の青年であり「立身出世」を旨とした時代にあつて田舎の平凡な教師でいることに疑問を感じ、失意の中でその短い人生を終えます。でも、「教師は尊い職業である」という考え方を感ぜさせる一節が作品の最後に出てきます（清三の墓参りに来る娘の話で物語は終わります）。

ある秋の日、和尚さんは、廂髪（ひさしがみ）に結って矢鉾（やがすり）の紬（つむぎ）に海老茶（えびちゃ）の袴（はかま）をはいた女学生ふうの娘が、野菊や山菊など一束にしたのを持って、寺の庫裏（くり）に手桶を借りに来て、手ずから前の水草の茂った井戸で水を汲んで、林さんの墓のありかを聞いて、その前で人目を忘れて久しく泣いていたということをかみさんから聞いた。

「どこの娘だか」などとその時かみさんが言った。ところがそれから二年ほどして、その墓参りをした娘が羽生の小学校の女教員をしているという話を聞いた。「あの娘は、林さんが弥勒で教えた生徒だとサ」とかみさんはどこかで聞いて来て和尚さんに話した。秋の末になると、いつも赤城おろしが吹きわたって、寺の裏の森は潮（うしお）のように鳴った。その森のそばを足利まで連絡した東武鉄道の汽車が朝に夕べにすさまじい響きを立てて通った。

教師にとっての最大の幸せは、関わった生徒の皆さんが立派に成長することです。子供は私達の宝、次世代を担う若者を育て、彼等がよりよい社会づくりに貢献してくれることを願うばかりです。明治末期の作品である「田舎教師」の中に、現代にも通じるニュアンスが既に垣間見える田山花袋の普遍的な捉えに今さらながら驚いています。恐らく本校に勤務しなければ、そのような感じ方もしなかったことでしょう。羽生市立東中学校に勤務し、素晴らしい生徒、保護者、地域の方々から恵まれ、教職生活を送ることができたことに心から感謝しております。本当に、本当に、ありがとうございました。

# 「中学生議会」への参加（生徒会本部役員）

2月1日（木）午後、本校の生徒会を代表して現生徒会本部役員3名が羽生市役所で行われた「中学生議会」に参加しました。この催しは「羽生市の広聴業務の一環として、市内中学生の市政に関する意見を聴取し、よりよい町づくりに生かしていく」という趣旨で行われるものです。流れは、実際の市議会さながらに「発言通告」「質問書提出」を経て本会議場での質問に至り、市長はじめ市の役職の方々に答弁をもらう形となっています。中学生議員として、生徒会長の〇〇〇〇さん（質問「羽生市の交通について」）、副会長の〇〇〇〇さん（質問「羽生市の樹木の剪定と雑草の管理について」）、書記の〇〇〇〇さん（質問「廃校になる三田ヶ谷小学校と村君小学校の未来について」）が出席し、質問し、その答弁を受けました。文部科学省から「主権者教育」の事業委託を受けた今、市議会のプログラムを実体験したことで、今後の生徒会運営が質の高いものになることが期待されます。



中学生議会（羽生市役所 本会議場）

## 校外学習（2学年）—東京方面フィールドワーク—

2月9日（金）2年生の「校外学習」を実施しました。この行事は、3学年1学期での「修学旅行」（奈良・京都方面）での班別行動を前に、2学年末に位置付けられた東京都内で班別行動のシミュレーションを行い、段階的に3か年の「旅行行事」を成功に導こうとするものです。当日は、大きなトラブルもなく、自分達が立てたプランに従って都内各所を巡って無事、羽生に帰着することができました。



## 県公立高等学校入学者選抜、定期テスト

2月21日（水）、22日（木）に、3学年は埼玉県公立高等学校入学者選抜（学力検査、実技・面接）を迎えました。また、1・2学年は、年度最後の定期テスト（第4回）を実施しました（2年生はインフルエンザの流行もあって翌週26日（月）までまがりました）。双方とも、力を出し切ってくれたことと確信しています。

### 3月の行事予定

日	曜	予定	日	曜	予定
1	金	県公立高校入学許可候補者発表	17	日	
2	土		18	月	
3	日		19	火	期末保護者会（1・2学年）
4	月	県公立高校入学試験追検査	20	水	春分の日
5	火	全校除草	21	木	給食終了（1・2学年）
6	水	安全の日 県公立高校入学試験追検査入学許可候補者発表	22	金	表彰集会 学年集会 大掃除
7	木	卒業式予行	23	土	
8	金	給食終了（3学年）	24	日	
9	土		25	月	
10	日		26	火	修了式
11	月	短縮日課	27	水	学年末休業日
12	火		28	木	
13	水	生徒会専門委員会	29	金	
14	木	短縮日課 卒業式準備	30	土	
15	金	卒業証書授与式	31	日	
16	土				

一年間、お世話になり、ありがとうございました。次年度も引き続き宜しくお願い申し上げます。